

文部科学省によると、6月1日から7月31日までの小中学生の感染者の特徴として、症状の有無は、有症状者の割合が小学生33%、中学生60%で、小中学生の感染経路は、家庭内感染が約66%、学校内感染が約4%、その他が約13%、感染経路不明が約17%であったとのこと。

新型コロナウイルス感染症から子供たちを守り、お子様が安心して学校生活を送ることができるよう、御家庭においても「新しい生活様式」を踏まえた取組に御協力をお願いします。

家庭に協力をお願いしたいこと

※ 変更箇所はありません。

1 毎日の健康観察

- 毎日登校前に、お子様の検温と健康観察を必ず行う。

① 風邪の症状や高熱または微熱が続いている場合（解熱剤を飲み続けなければならない場合を含む。）

② 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある場合

特に、基礎疾患等のあるお子様は、①②の状態が続く場合、かかりつけ医または下関保健所等に電話連絡し、指示に従う。



- 発熱や風邪の症状がある場合は、自宅で休養させる。（出席停止扱い）
- お子様が無症状であっても、同居するその家族に発熱や風邪の症状がみられる場合には、自宅待機を検討する。（出席停止扱い）
- 登校しない場合は、学校に必ず連絡する。

2 手洗いの励行

- 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
- 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う。（手指消毒薬も可）

3 咳エチケットの徹底

- 咳、くしゃみをする際、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえる。

4 3密の回避（密閉、密集、密接）

人と集まるときや外出する際は、次のことを気をつける。

◆ 「密閉」の回避・・・こまめな換気

気候上可能な限り常時行い、困難な場合はこまめに（30分に1回以上、数分程度を目安に窓を開ける）、2方向（部屋の対角線）の窓を同時に開けて行う。

◆ 「密集」の回避・・・身体的距離の確保

飛沫感染を防ぐため、できるだけ人と人との距離を確保する。

◆ 「密接」の回避・・・マスクの着用

外出するときは、できるだけマスクを着用する。ただし、気温や湿度が高く、熱中症になりそうな場合には、マスクを外す。

室内でも家族以外の人と交流する際はマスクを着用する。



「新しい生活様式」
(QRコード)

5 抵抗力・免疫力を高める

十分な睡眠、バランスのとれた食事、適度な運動を心がける。

ウイルスには誰もが感染する可能性があります。それが、たまたま自分の家族、子供たちの学校や学級の友だちかもしれません。「正しく恐れる」べき相手はウイルスで、人ではありません。

私たちPTA会員が、新型コロナウイルスに関連する身近に起こる差別や偏見を見逃さず、子供たちと家庭を守るために出来ることをしっかり取り組んでまいりましょう。